ワークショップ

－国際看護ティーチングメソッドをシェアします－
Part１・Part2

発表者：Part１ 近藤 暁子（東京医科歯科大学大学院）
華　セイ　（東京医科歯科大学大学院）
那須ダグバ 潤子（京都橘大学）
Part２ 竹下 夏美（京都橘大学）
横山 詞果（滋賀県立大学）
マルティネス 真喜子（京都橘大学）

第６回学術集会のテーマである、「広めよう！国際看護ティーチングメソッド」に沿い、国際看護の授業担当者、または国際看護について伝える立場にある人々の悩みのたねであろう、「どのように伝えるか？」を解決できないものか。そこで、複数の教員による国際看護ティーチングメソッドを参加者と共有できる場を設けることとしました。

Part1 では、先進国の状況に精通されている２名の講師が、part2 では、開発途上国の状況をよく知る JOCV 経験者の３名の講師が発表いたします。

ワークショップとしておりますのは、オーディエンスの皆様が、授業の受講者として参加しているかのような構成にしたからです。自分以外の講師が行う国際看護の授業に入り込むことはなかなかできることではないですよね。5 つのパターンの授業発表に参加できる貴重な機会です。参加者の皆様との意見交換なども行いながら、様々なアイデアを得、実際に授業で使っていきましょう！

Part1

１．日本語が話せない患者とのコミュニケーション演習

近藤　暁子（東京医科歯科大学大学院　国際看護開発学）
華　セイ　（東京医科歯科大学大学院　国際看護開発学）

在日外国人の増加により病院でも外国人患者の対応が必要となっています。外国人の患者の対応で最も困難なのはコミュニケーションの問題であることが多くの研究で報告されています。文化や習慣の違いについてはコミュニケーションを取ることで、理解可能ですが、コミュニケーションが取れない場合は、文化や習慣の違いについて理解することも困難です。そこで、著者は本学看護学専攻４年生の「国際保健看護学」の授業において、留学生の協力を得て、日本語が話せない患者の事例を作成し、日本語を使用しないでコミュニケーションをとる演習を実施しています。本学術集会においても、留学生の協力を得て、参加者の皆さんに演習に参加していただきたいと考えています。
シンポジウムでは40分間の持ち時間で、下記内容を予定しています（変更の可能性あり）。

５分：演習の説明、患者紹介。
10分：Breakout roomに別れてグループごとに対策を考える。
10分：日本語を使用しないで患者役の留学生とコミュニケーションをとり、患者の訴えていること、困っていることを聞く。
８分 ： 参加者から感想やフィードバック。
７分 ： 留学生・近藤からのフィードバック。

皆様のご参加をお待ちしています。

２．国際看護は海外の話？教員と学生がともに経験し考える国際看護

那須ダグバ　潤子（京都橘大学）

国際看護を教えるようになって10年が経ちました。私のティーチングメソッドは３つ、世界の問題を身近なものにすること、教員の世界を疑似体験すること、そして常に双方向のやりとりをすることです。これまで「海外で働いていたのですか？」という質問を何度も受けてきました。海外青年協力隊ではない、海外で働いたわけでもない私が、どのような視点で国際看護を教えてきたか、皆さんと共有したいと思います。

Part2

１．LDC（後発開発途上国）の理解から国際看護を深める授業

竹下　夏美（京都橘大学）　JOCV インドネシア派遣

国際看護学の授業を担当し、13 年目です。発表者が担当する国際看護学の授業は、2 回生後期の 100 分授業 14 コマ 2 単位分です。基礎的な知識の獲得および映像などのメディアからの情報をもとにオムニバスで講義（海外での看護活動経験者によるプレゼンテーションを通して国際看護活動の実際を学ぶ）を行っています。

並行して 1 グループ 3～4 人で国が重ならないように LDC の国を一つ選び、背景や健康課題を抽出・対策の検討等を行っています。時間外を含むグループワークによるディスカッション後、締めくくりとして PPT 動画作成で発表を行い、学生全員が全てのグループの動画を視聴し評価しています。今回は、そのプロセスの一部を用いて、LDC の国々をまず世界地図から探していただき、選んだ国の指標等も調べていただきます。一つの国について興味関心を持って理解することから、国際看護を深める授業の一部を皆さんと 共有したいと思っています。ご参加をお待ちしております。

２．日本とは異なる健康観をどう伝えていくことができるのか

横山　詞果（滋賀県立大学）　JOCV セネガル派遣

セネガル共和国での JOCV 看護活動の実践報告を通して、国際看護学の科目の一部を担当している。国際看護学の教育に関してはまだ学習者であり、活動実践のなかで国際看護の本質をどう伝えていけるか、日々試行錯誤しながら実施している。なかでも、日本とは異なるセネガル共和国の文化や宗教、慣習などを伝え、それらからつながって培われている健康観や死生観を理解していくこと、また、それを尊重して支援することの大切さを伝えていきたいと考えている。今回、学生にどのように伝えていくことができるのか、皆様と一緒に考える機会としていきたい。

３．国際看護×メディア・リテラシー

マルティネス 真喜子（京都橘大学）　JOCV エルサルバドル派遣

国際看護の授業では、メディア（主に画像や映像などのビジュアル情報媒体）を用いることが多くなると思われます。メディアを使用することで、学生は国際看護のイメージをクリアにすることができ、わくわくして授業を聞くことができますよね。皆さんは国際看護の授業をする際、どのようなメディアを使用されますか？その際、学生の“メディア・リテラシー”を意識されたことがありますか？　国際看護の授業を楽しく、そして学生のクリティカルな思考を促すためのメディアの活用と注意点、学生のメディア・リテラシーについて皆さんと一緒に考えてみたいと思います。是非、ご参加いただき、意見交換できますことを楽しみにしております。